錦江に生きる

じゅうきゅうにん目　その㈠

清山（きよやま）　一郎（いちろう）さん

（折小野自治会）

▲暖炉の前で談笑する一郎さん、とし子さん夫妻

▼とし子さんお手製のお菓子

このコーナーでは、町内でこれから根を張っていこうと頑張っている若者を中心に紹介していきます。
第19回目は、折小野自治会の清山一郎さんです。

「家族の絆」Iターン一家の清山一郎さん家族を取材していて、改めて考えさせられた。

田代地区の折小野自治会の外れ、山頂付近にポツンと建っている大きなログハウス調の家。そこが清山さん家族が住む場所である。玄関を開けると大きな暖炉が飛び込んできた。そこで一郎さんと妻のとし子さんに話を聞いた。

一郎さんは、綺麗な水を求めて旧田代町に6年前に移住してきた。なぜ綺麗な水が必要だったのか尋ねると、「次女の幹子はアトピー性皮膚炎でカルキの入った水がだめなんです。」続けて、「いろいろなところの水を見てきたが、ここの水が一番きれいだった。」と話した。移住することで障害はなかったかと尋ねると、「移住のため転職を余儀なくされたがそんなことはまったく問題ではなかった。」と笑い飛ばした。

鶴園自治会に借家を見つけ、そこから土地探しを始め今の土地を見つけたらしい。土地といっても住宅用地ではなく、木の生い茂る山を夫婦二人で開拓し、家も二年がかりで一郎さんが建てたということだった。すごいですね。と感嘆の声を上げると、「いやいや、実はまだ完成ではないんです。一日がもっと長ければ仕上げられるんですけど。」と残念そうな表情を浮かべた。家を完成させる時間が欲しいのかと思ったら、「ここでの生活の最終目標は、究極のエコ生活なんです。水は今も山水を使っているが電力も豊富な水や風を使って自給し、もちろん食べものも自給自足にしたいんです。そのためにはもっともっと時間が欲しい。」と目を輝かせた。その話を受けてとし子さんが、「私は料理が好きだから、自分たちで育てた食材を使って調理すればさらに楽しみが増すのに。」と、夫婦そろって〝田舎生活〟が楽しくて仕方ないらしい。子ども達の評判はどうか尋ねると「最初は周りに民家もなく、友達の家から遠いことに不満を漏らしたが、今では慣れてそれなりにここの暮らしを楽しんでるようです。」と話した。そのまま、4人の子ども達の話になると、一郎さんが「長男は広島に、長女は鹿屋に住んでます。長男の洋一郎はバイク事故で車椅子を使用してるんです。」と話し始めた。

（一月号へ続く）

錦江町

思ひ出写真館

昭和38年
牛の放牧の様子（大根占地区）

▶写真のご協力をお願いします。◀

「錦江町思ひ出写真館」に掲載する写真を募集します。

撮影時期・場所・状況等を付けて、役場企画課へ持ち込むか郵送ください。

お借りした写真は責任を持ってお返しします。